

平成29年度 農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 徳之島高等学校

1 目的

生徒は授業で農業を経験する機会はあるものの、先進的な農家の取組を知る機会は少ない。そこで島内外の生産や流通の現場視察や実習を通して、将来の徳之島の農業を担う人材育成を行う。

2 実施状況

(1) 島外先進地視察

営農意欲の高い2年生2名に対して島外の先進地視察を実施した。稲作農家や鹿児島市都市農業センター等を訪問し、普段見ることができない施設の見学や研修を通して、農業に対する考え方の幅が広がり、就農意欲を高める意味で効果的であった。



鹿児島市都市農業センター

(2) 島内視察研修

9月に水耕栽培施設とドローンのデモンストレーションを視察した。水耕栽培施設では障害者の雇用もあり、水菜等の葉菜類を島内で定期的に供給できる経営をしていた。ドローンによる薬剤散布はサトウキビ栽培の省力化につながる技術であった。

また、2月には島内の製糖工場を視察し、サトウキビが多くの工程を経て原料糖になることを理解するとともに、サトウキビが島にとって重要作物であることを改めて認識した。



ドローンのデモンストレーション

(3) インターンシップ

生物生産系列2年生を対象に、3日間の日程で畜産（肉用牛）農家での実習を行った。本校では農場に家畜を飼育していないため、家畜を扱う学習の機会とともに、農家の一日の仕事の流れを体験により理解する貴重な機会となった。

3 今後の課題、取組

島内だけでなく、島外の特徴ある取組を見る機会を確保することで、将来先進的な経営形態を目標にした営農の意欲を高めることにつなげたい。さらに、就農や農業大学校など農業関連の進路に結びつくよう、普段の授業や実習でも工夫した取組を行いたい。



畜産農家での実習